

1st day  
PM

# 第4会場●4F 大研修室

■司 会／東川 絵葉 岡山県教育庁生涯学習課 総括主任  
谷上 元織 島根県益田市教育委員会社会教育課 派遣社会教育主事

分科会の進め方

13:30~13:35

## 1 村育(むらいく) ～地方創生総合戦略の核心～

13:35~14:05

日下 輝彦(徳島県佐那河内村) 村育推進協議会 会長

佐那河内村は県内唯一の村である。村は地方創生総合戦略ビジョンを策定し、その重点を「村育(むらいく)」の振興においた。村育は、行政の縦割りを排し、首長部局と教育行政の予算も共有化し、保育もスポーツも、公民館も学校も、地域おこし協力隊も巻き込んだ総合的な推進組織を作った。目的は、組織を繋ぎ、人を繋ぎ、村の活動を繋ぎ、学校と社会教育を連携させて、グローバルな視点を持ち、ローカルで活躍する未来人材を育成することである。具体的には、放課後子ども教室におけるオール・イングリッシュプログラム、鳴門教育大学の学生サークルの協力を得たさなごうち土曜塾、鳴門教育大学の協力を得たふれあいアクティビティ、川の学習などを展開している。

## 2 地域おこしは人おこし ～地域おこし協力隊がもたらす地域変容～

14:10~14:40

藤井 裕也(岡山県美作市) NPO法人山村エンタープライズ 代表理事

2017年、総務省が行う地域おこし協力隊として活動する若者は全国で約4,000名にのぼる。NPO法人山村エンタープライズは、地域おこし協力隊制度ができて間もない頃に地域住民の協力を得て、協力隊卒業生と移住者でつくられた組織である。主に空き家を活用したシェアハウスを運営し、地域外から若者を受け入れ、人材不足にある地域の事業所とつなぐ「人おこしプロジェクト」や地域の高校生と地域の未来について考える「みまさか学」を様々な主体と協働して企画実施している。岡山県美作市で取り組んでいる実践事例から、地域おこし協力隊の実践活動がもたらす地域変容について発表する。

ティータイム

14:40~15:05

## 3 未来へ繋ぐまちづくり ～元気・やさしさ・幸せの創造～

15:05~15:35

山崎 順子(島根県出雲市) 鳶巣コミュニティセンター チーフマネージャー

山崎 明子(島根県出雲市) 鳶巣コミュニティセンター マネージャー

鳶巣地区では、平成25年を起点とするコミュニティ創造の10カ年計画を実施中である。本企画は、地域を担って来た世代が高齢化し、次の世代へのバトンタッチと人材育成がテーマである。地元拠出金や行政の助成金を活用し、夏・秋の鳶巣祭り、コミセンカフェづくりなどの企画を30代～50代の世代の発想と活動に任せてみた。この世代は現役の実働世代である。この世代が本気で動くことコミュニティの意識が醸成され、高齢世代はもとより、子どもも動き、全世代を巻き込んだ活動に裾野が広がっていく。目標は、住民自らが創り出す近未来の元気・やさしさ・幸せである。

## 4 想いを繋いで35年 ～子どもと青年が共に育つ場を繋いできた「ウハウハ長尾」の軌跡と想い～

15:40~16:10

角田 愛美(福岡県福岡市) 非営利団体 ウハウハ長尾 代表

ウハウハ長尾は、高校生・大学生・社会人で構成された「誰もがいきいきと暮らせるまちづくり」をめざして活動する民間の青年団体である。1982年の結成以来、これまで70回余りのさまざまな野外体験活動を行ってきた。福岡市城南区長尾を拠点に、若者が中心となって企画したアドベンチャーキャンプを行うなど、自主企画・自主運営で、「子どもたち」をキーワードに活動している。企画・運営を行うスタッフは過去のアドベンチャーキャンプに参加していた青年も多く、ここで育った子どもが青年となり、次の世代の子どもへと、更に次の世代の子どもへと想いを繋いでいる。結成当初より自然の中での体験活動を通して、子どもと青年が共に成長する場として活動を続けている。